

僕が一ノ坪製作所で仕事を始めて約30年。人手不足など、当時と世間の雰囲気は似ているような気がするけど、今は忙しさが「複雑」になったように思います。つくるものも変わり、連絡手段も電話とFAXだけの時代から、パソコンやスマホが主流の時代になりました。ツールだけではなく、人間関係や働き方など、世の中にあるいろんなもの（「種類」）が増えました。多様化ゆえに、同じものを提供したら飽

きられることだってある。毎日の情報量も多く、「あれもこれもできなアカン」って思い込んでしまう。でもね、元々人間って何でもかんでもできるわけじゃないんです。ひとつの「意」から「自分の得意なこと」で人や世の中を喜ばせることができた幸せですよ。当たり前ですが、得意なことやタイブっていうのは、人それぞれ違う。できる人もできない人もいて、そのグループの中で「どんな成果を出すか」

ということが僕たちのテーマです。「集合知」（集合的知性）という言葉もあるように、それぞれのタイブが違うからこそ大きな成果や新しい製品の開発に結び付く可能性もあります。社長である僕の役目は「会社としての成果を出すこと」。だから自分と気の合う同じタイブの人間だけではなく、いろんな異なるタイブを集める。会社は「長い間、毎日一緒に仕事を」という背景があって、コミュニティが共同体となります。その中で、ずっと仕事をしていると、そのうちに相手と自分の得意なことを交換して、自然に役割分担をし始めるんです。勝

手にうまい具合の凹凸がうまれてきます。「会社は儲けるため」みたいな理由ではなく、「この土地が好きやねん」とか「価値観が合うなあ」という人たちが集まって成果を出すっていうのはコミュニティとしてとても幸せなことです。なにより、特別なことを成し遂げなくても「この人の存在ってありがたいなあ」と存在自体に敬意を払えることが一番大事だと思います。



ココロのデスク



ココロのデスク

製品の改良を重ねて、信頼度がアップ!

年間20万台以上の受注をいただいた「ロングランデスク」は、毎年、新シリーズとして販売されていたため、改善を提案する機会が多くなりました。

改善をすると、さらに受注が増え、その受注に対応するべく、さらに改善を行いました。これがココロ様との信頼関係をより強固にするきっかけとなり、現在のオフィス用OAデスクなどの受注につながりました。増産につく増産がかかり、本社工場だけでは供給が間に合わなくなり、数年後に三重工場を開設する運びとなりました。

1975 (昭和50年)

一ノ坪小市の八尾市の自宅での葬儀に、当時のココロ様の常務の方がたまたま近所のおよみでお焼香をあげに来てくださったのです。そんな偶然をきっかけに、昭和53年よりココロ様とのお取引がスタート! 一世を風靡した天板昇降機能つき学習机「ロングランデスク・くるくるメカ」の最も重要な機構の部分の製造を担当。特許を持つドイツのメーカーを視察し、部品の改良や製造工程の効率化など、研究開発を行い、量産化にこぎつけました。



現金長
一ノ坪 久浩

昭和60年代から平成にかけて
ココロニューオフィスデスクが大ヒット!



昭和編

イチノツボモノづくりヒストリー

2018年で創業から70年を迎え、年号も昭和から平成、そして今年令和になりました。時代が変わっても、当社のメイン事業はスチール製品のOEM生産から変わっていません。昭和のイチノツボのモノづくりを当時の主な生産品から、ふりかえてみましょう!



1961 (昭和36年)

製図台の脚部をはじめとする一般金属加工

13年間続けてきた自転車フレーム製造から撤退するという大きな転機が! 取引先が新設工場を立ち上げたため、自転車フレーム製造の仕事がゼロに……。

そんな当社存続のピンチを救ったのが、製図台の脚部をつくる仕事でした。自転車フレームの製造と違い、まだまだ数が少ない製品のため、部品の加工から行う必要があり、大変に手間はかかりましたが、この製品が現在につながる「イチから全てを作り上げる」仕事への転換点になりました。

1948 (昭和23年)

創業者である一ノ坪小市は大正時代に故郷の兵庫県から大阪の自転車フレーム製造工場に丁稚奉公に出ていました。そこで身につけた技術を活かし、自転車フレーム製造業者として大阪で独立し、終戦から3年後に一ノ坪製作所を創業。

自転車フレームの製造



創業者
一ノ坪 小市



ココロ

Vol.11
2019 Autumn

毎日の小さな積み重ねが大きな成果に!
イチノツボの辿った軌跡とこれから。



株式会社 一ノ坪製作所
ICHINOTSUBO MANUFACTURING CO.,LTD.

<http://www.ichinotsubo.co.jp>

イチのツボ!

いの一にお届けしたい、一ノ坪製作所の「こんなこと」さらなる「改善」に向けて、一丸となって取り組みます。

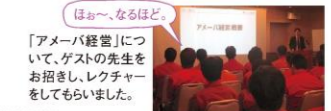


62期下期方針説明会を開催。 新たな取り組みである 「アメーバ経営」を導入!

管理部 上田 葵



よう頑張ったね!



ほおへ、なるほど。

「アメーバ経営」について、ゲストの先生をお招きし、レクチャーをしてもらいました。



これで合ってるんかな?

仕事の適正を調べるテスト「GATB(厚生労働省編 一般職業適性検査)」を全員で受検! 苦戦しながらも真剣に解きました。当社の採用試験でも行われています。

編成されたグループの顔合わせをし、アメーバ経営に向けて新リーダーから抱負の言葉をもらい、親睦が深まりました。



「イエー!」
おいしいお弁当を食べながら、みんながワイワイとそれぞれの目標を語りました。

「全国金魚すくい選手権」に参戦!

本社工場 板金グループリーダー 吉川 宏司



金魚の三大産地である奈良県大和郡山田市で開催された「全国金魚すくい選手権」にインドネシアの実習生18名とオリジナル「KANI」Tシャツを着て、今年も参戦しました。初戦敗退と残念な結果でしたが、TVの取材も受け、大いに盛り上がりました。



なんと、産経新聞にも取り上げられました! 「Kani」Tシャツもちゃっかり写っています!

自社商品サイトのホームページをリニューアル!

開発営業部 北村 孝洋



「M.T.T.(見やすい、使いやすい、分かり易い)」の3拍子揃った唯一無二のサイトを目指し、これからも、「K.K.(改善改良)」に努めます!



こちらからアクセスできます。

NEWS!

新しい仲間が増えました。

10月から本社工場に技能エンジニアとしてベトナム人のタンくん、ホアンくんの2名が加わりました。本社工場もこれから一層になって働く新しい仲間が増え、にぎやかになりそうです!



ようしく!



楽しかったネ!

社内イベント「パスツア」!

イベント担当 福田 俊介

今年も社内イベントを企画しました。パス3台をチャーターし、約100名が参加

いちのつぼ



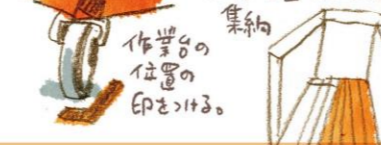
Vol.11

今回は、一ノ坪製作所を支えるみんなの「改善」に対する取り組みについてご紹介。モノづくりにおいて、不良品を作らない・出さない努力は当然ですが、もっともっと良くしていくための「改善」が大切! 年間改善数777件を目標に、ふだん「当たり前」と思っ何気なく見過ごしがちな業務やルーティーンをつぶさに見直しています。工場の随所にみんなのアイデアがキラリ☆ 日常生活でも参考になるかも!

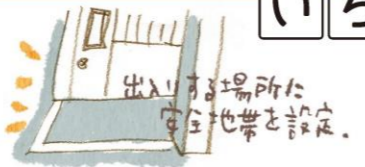
工具置き網棚を整理



乱雑になりがちなパイプを置場として集約



作業台の位置の印を付ける。



出入りする場所に安全地帯を設ける。



クランプで固定
作業台を固定
マグネット使用



改善前
かじ込み式

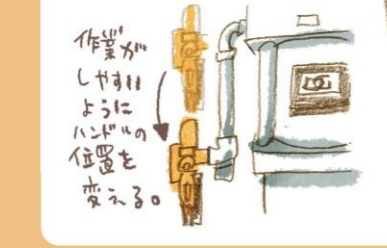
改善後
フロッシユ式



それぞれの作業者の身長に合わせた高さの作業台。
EPAデバイスも使いやすさをストレス軽減!



西己線がEPAホースをまとめて事故を防ぐ



作業がしやすいようにパイプの位置を定める。